

大学入学者選抜改革推進委託事業 (不正行為防止対策に関する調査・分析)

令和5年度予算額 0.2億円
(新規)



背景・課題

大学入学者選抜において情報通信機器を悪用した不正行為が続出しており、その犯行手口において、極めて小さなワイヤレスイヤホンを用いるなどの状況が生じている。電子機器類を使用した不正行為防止策として、巡視体制を強化するなどによる対応を行う※が、**日本と同様に情報通信機器を用いた不正行為の手口が多様化している海外の事例や既存技術の状況を調査分析**することにより、今後の不正行為防止対策を検討していく上で必要な専門的・客観的情報を得る。

※令和4年度大学入学共通テストにおいて発生した情報通信機器を悪用した不正行為を受けて、大学入学者選抜における不正行為防止対策について文科省内でワーキンググループを立ち上げ対応策を検討。

● 令和4年度大学入学共通テスト
(令和4年1月実施)

・試験時間中に試験問題を映した画像を流出させ、解答を得ていた事案があり、受験生を書類送検。撮影にはスマートフォンを使用。中継役を担った者は、偽計業務妨害罪で略式起訴。

● 一橋大学における留学生入試
(令和4年1月実施)

・試験時間中に試験問題を映した画像がSNSにより外部に送信され、解答を得ていたとみられる事案があり、関係者(中国人2名)を逮捕。その犯行手口の調査の中で、極めて小さなワイヤレスイヤホン(約15mm)を使用した可能性について報道。

事業内容

大学入学者選抜における高度な技術を用いた情報通信機器の悪用による不正行為防止対策について、海外の事例や既存技術の状況を調査分析する。

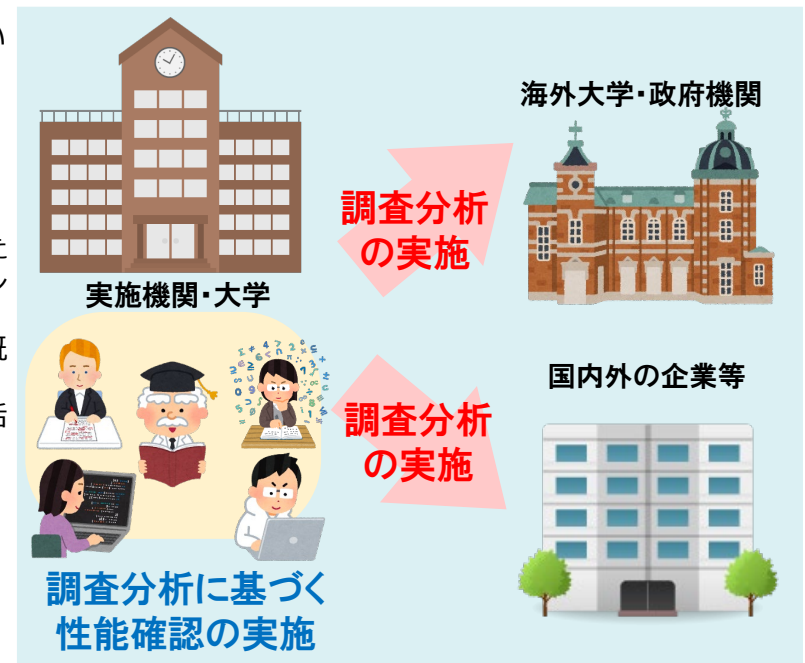
■ 事業実施期間：令和5年度～

【事業内容】

- 海外事例調査：日本と同様に大学入学に係る全国共通の統一入試を実施しており、かつIT機器を悪用した不正手口が多様化している中国及び韓国の現状や不正行為防止策について文献調査及び現地調査(ヒアリング)を行い、我が国の不正行為防止対策に係る知見を得る。
- 電波識別・電波遮断技術等既存技術調査：国内外の電波遮断技術や電波通信抑止技術等既存技術や既製品の状況について調査を行う。
- 性能確認：試験室の状況下において、調査した情報通信機器を用い性能確認を行うことにより、既存技術の活用の可能性や限界について明らかとする。

件数・単価：1箇所×2千万円

- 契約先：不正行為防止に係る国内外の調査を実施することのできる機関・大学に委託し調査研究を実施。



アウトプット(活動目標)

海外事例調査及び国内外の電波識別・電波遮断技術等既存技術を調査することにより、**最新のIT機器を用いた不正行為防止対策の現状についての知見の蓄積や既存技術の可能性や限界について明らかにする。**

アウトカム(成果目標)

委託事業終了時：アウトプット(活動目標)を踏まえ、**不正行為防止対策について効果的に検討することができる。**

インパクト(国民・社会への影響)、目指すべき姿

不正行為防止対策に関する調査・分析結果により、**入試や資格試験等におけるIT機器を利用した不正行為防止対策に寄与できる。**